

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	令和6年 6月20日
タイトル	荒廃地再生からの 地元小学校5年生児童200人田植え ～新着任校長先生も奮闘、土地改良区職員が田んぼの先生～
水土里レポーター名	塩脇和弘

地元小学校5年生約200人が参加し、恒例の田植え体験学習が開催されました。児童たちは泥の感触に歓声を上げながら、一株一株丁寧に苗を植え付け、農業の大切さやお米づくりの苦労を学びました。

今回体験学習の舞台となったこの田んぼは、かつて長年にわたり耕作放棄されていた荒廃農地でした。土地改良区職員が農地を借り受け、自ら草刈機で雑草を刈り払い、トラクターによる開墾作業を実施。その後も継続的な除草管理や維持管理を行いながら再生した農地です。地域の貴重な農地を守りたいという思いから始まった取組が実を結び、現在では子どもたちの学習の場として活用されています。

当日は土地改良区職員が「田んぼの先生」となり、苗の持ち方や植え方、水田の持つ役割について分かりやすく説明しました。児童たちは職員の話に熱心に耳を傾けながら、友達と協力して田植え作業を進めていました。

また、神奈川県県央地域県政総合センター農地課も用水路の説明や水の流れなどの授業を行いました。

この春に着任した校長先生も児童たちと一緒に田んぼへ入り、泥だらけになりながら田植えに挑戦。子どもたちから大きな声援が送られ、会場は終始笑顔に包まれました。

荒廃農地の再生から始まったこの取組は、農業体験だけでなく、農地や水路の役割、地域農業を支える土地改良施設の重要性を学ぶ貴重な機会となっています。今後も地域、学校、土地改良区が連携しながら活動を継続し、農業・農村の魅力を次世代へ伝えていきます。



乗用草刈機で開墾



代掻きした田んぼ



児童たちを待つ準備

児童たちのクツ
靴下2枚履きで
田んぼにぞく



1クラス40人程
5回に分けて田植
えを体験！

